

こうち志議会

(こうちこころざしぎかい)

会 議 録

事務局長：

開会の前に、会場記録用の写真撮影を行わせていただきます。議場の皆様は、ご着席のままで結構です。お待ちくださるようお願いいたします。

岡田咲 議長：

これより高知市立中学校、義務教育学校、高等学校の生徒による令和6年度こうち志議会を開会いたします。本日、議長を務めさせていただきます、高知商業高等学校、岡田咲です。よろしくお願いします。

まず、こうち志議会の開催にあたり、桑名市長からごあいさつがあります。

桑名市長：

市長。

岡田咲 議長：

桑名市長。

桑名市長：

令和6年度「こうち志議会」の開会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日開催されます、この「こうち志議会」は、高知市教育大綱の基本目標の一つである「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」の実現に向け、「土佐の先人のように志をもち、自ら未来を切り拓いていくことのできる人になってほしい」との思いを込めて、開催するものでございます。

今年で「こうち志議会」の開催は7回目となりますが、これまで、中学校、義務教育学校のみならず、日頃感じている学校のことや地域のこと、防災活動、交通安全対策、環境問題、そして特別なニーズに対応する教育についてなど、それぞれ具体的なお提言をいただいております。

また、高知商業高等学校では、「ラオス学校建設活動」が30周年を迎えるなど、多くの生徒の皆さんが、関心のある分野で問題意識を持ちながら活動されており、高校生ならではの斬新な質問は、高知市としても大変参考になっております。

さて、本市のまちづくりの指針となる「2011高知市総合計画」は、基本構想の実現に向けて、2021年度から2030年度までの10年間の施策を体系的に示す「後期基本計画」を策定しております。今回の「こうち志議会」で皆様方からいただきましたご提言も参考にしながら、明るさとにぎわいに満ちあふれた元気あふれる高知市を目指してまいります。

これまで、ご参加いただいた中高生の皆さんからは、私ども執行部に対しまして、大変参考となるご提言をいただいております、各学校におきまして、様々な活動を通じ、自分たちの学校や地域をすばらしいものにしようとしてされている皆さんの取組は、大変大きな意義があるものと考えております。

また、本日の「こうち志議会」において、生徒の皆様方が議員となって夢や希望を実現できる社会や未来について語り合うことを通して、市政のしくみについて学んでいただき、有権者、もしくは将来の有権者として政治に関心をもっていただける場となれば幸いです。

そして、この「こうち志議会」を通して得られた学びや気づきが、これからの学校生活の充実につながり、さらには、皆さんの未来にもつながる有意義な一日になることを期待しております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

最後にこの「こうち志議会」の開催にあたりまして、長期にわたり熱心にご指導いただきました、各学校の先生方に心から御礼を申し上げ、開会のあいさつと代えさせていただきます。

岡田咲 議長：

それでは、一般質問を始めます。

高知商業高等学校 浅野悠希 議員：

1 番。

岡田咲 議長：

高知商業高等学校 浅野悠希 議員。

高知商業高等学校 浅野悠希 議員：

はい。

「苔アート」を利用した PR 活動について提案させていただきます。

今年、高知商業高校はラオスとの交流30周年を迎えました。そこで、11月にはラオス交流30周年式典を、そしてラオス商品や世界各国のパンや料理の販売を行う高知商業グローバルフェスティバルを開催します。そこで私たちは新たな宣伝方法として苔アートを活用した PR 方法を考えました。

皆さまはイベントなどを宣伝するとなれば、インターネットを使った SNS 広告やポスターやチラシを配るなどといった宣伝方法が思い浮かぶのではないのでしょうか。

書画カメラをお願いします。こちらは、他県で実際に行われた苔アートの写真です。

私たちが考える苔アートの効果は2つあります。

1つ目に、壁面に広告やイラストを描くことによって多くの人に対して宣伝の効果が有り、イベントの売り上げ増加に貢献することができると考えています。また、独自の広告方法により、話題性があり、人の印象に残りやすくなるとも考えています。

2つ目に、イベントの終了後には、使用した団体・企業が壁面をきれいにすることでクリーンな地

域・街づくりを実現することができます。

この企画は、汚れや苔などがあればコストがほとんどかからずに、活動を行うことができます。また活動後には使用した団体が掃除をして、きれいにするため持続可能な高知の新たな広告塔として使用していくことができます。

もしこの企画が成功すれば、全国でも数少ない画期的な取り組みになると考えています。

書画カメラを終わります。

そこで高知市の皆さまに一点提案があります。

今年私たちが新たな宣伝方法として苔アートを活用し、本校のイベントの宣伝を行いその宣伝効果について検証いたしますので、その結果が効果的であった際には、高知市所有の壁に苔アートを描き、高知を訪れる観光客の皆さんに対して PR する取組を高知商業と連携して行っていただけないでしょうか。

私たちはイベント実施後、その効果を検証し報告させていただきますので、良い効果が見込める場合には苔アートを活用したPRについて今後取り入れていただくことをご検討していただきたいと思います。

高知市の魅力発信や、地域活性化のため皆様のご協力をどうぞよろしくお願いします。

今西 商工観光部長：

商工観光部長。

岡田咲 議長：

今西 商工観光部長。

今西 商工観光部長：

ご質問の中にもありましたように、高知商業高校の皆さんは、平成6年にラオスとの交流が始まって以来、模擬株式会社の設立や運営により、ラオス商品販売で得られた利益の一部を、ラオスの学校建設のために寄贈する国際協力活動を継続し、これまで、幼稚園を含む9校の学校建設を実現してきたことは、大変、素晴らしい取組であると認識をしています。

その30年の取組の節目として、ラオス交流30周年記念式典並びに高知商業グローバルフェスティバルを開催するにあたり、話題性のある苔アートによる新たな宣伝方法を、高知市にご提案いただき、誠にありがとうございます。

苔アートは、ご紹介ありましたように道路沿いの苔の生えた擁壁に、イベントや地域の紹介を描くことで、通常は目立たない存在である道路擁壁を美しいアート作品に変身させますので、人々の印象に残る宣伝方法として、集客に繋がる可能性を秘めていると考えています。

高知市における苔アートの活用につきましては、苔で覆われた壁面を利用することから、市内中心部よりも、周辺部がフィールドとしてメインになることが想定され、イベントの宣伝だけではなく、中山間地域等における地域活性化や交流人口の増加に繋がる取組になるのではないかと考えています。

一方、苔アートの事例の中でもご紹介がありました徳島県の四国大学では、地域を盛り上げるための取組として苔アートに挑戦し、イベントの活性化や学生と地域の連携について検証していますが、苔アートを行うだけでは、集客力が増す訳ではないこと、また、イベントを盛り上げるためには、地

域や個人の発信を通じて、積極的に広報を行うことが必要だと報告をしています。

苔アートの結果を検証される際は、これらの視点も踏まえて検討いただくとともに、本市の魅力発信や地域活性化につきましても、是非、ご提案をいただきたいと考えておりますので、是非よろしくお願いいたします。

行川学園 三輪陽仁 議員：

2 番。

岡田咲 議長：

行川学園 三輪陽仁 議員。

行川学園 三輪陽仁 議員：

はい。

災害時に私たちができることについて質問させていただきます。

行川学園は、地域との関わりを大切にしています。生徒会の取組として、なかよし公園の清掃を地域の方と一緒にしています。

他にも生徒会では、敬老の日のプレゼントやメッセージカード作り、年末には地域の方に宛てた年賀状書きなどの呼びかけを行い、1年生から9年生までの全校で取り組んでいます。

行事としては、運動会や合同防災なども地域の方と一緒にしています。今年は、コロナの関係で中止になっていた夏祭りも行うようになりました。

行川学園は地域と共に歩んできた学校で地域の方も私たちと一緒に行事をすることを楽しみにしています。

毎年行われている合同防災では、地域の方と防災食を作ったり、講演を聞いたり、段ボールベッドを作ったりしてきました。昨年は、学校が地域の避難所となることから避難所運営を体験しました。その体験を通して、災害時に、学校が避難場所になった時に、自分たちが災害時にできることや、役割について、考えるきっかけになりました。

質問は、災害が起こった時に、中学生ができる役割はどのようなことがあるか、東日本大震災や今年発生した能登半島地震において、中学生が行ってきたことを参考に、避難所に来ることができない地域の方に、自分たちがどのようなことをしていけるか知りたいと思いました。

このことを学習して、今後の地域貢献に役立たせたいと思います。よろしくお願いいたします。

山崎 防災対策部長：

防災対策部長。

岡田咲 議長：

山崎 防災対策部長。

山崎 防災対策部長：

行川学園の皆さまは、地域との関わりを大切にされ、公園の清掃、敬老の日や年賀状などの季節行

事、運動会や防災活動などにも取り組まれておられるとのことで、コロナの影響や人口減少などで地域行事の存続が難しくなっている地区もある中で、行川地域、そして高知市の未来に希望が持てる取組であると思います。

また、合同防災での避難所運営の体験から、学校が避難所になったときにできないことがないか、とたいへん前向きなご質問をいただきましたことは、地域貢献への思いが強く表れていると思いますし、たいへん心強く思います。

ご質問にございましたように、南海トラフ地震のような大規模災害時には、道路の寸断などにより、避難所に来られない方が一定いらっしゃる事が予測されます。

このような場合には、自衛隊や消防、警察などの応急救助機関が、関係機関と協力して道路の通行を確保し、安否確認を行ったうえで、必要な物資を配送するなどの支援を行うこととなります。

このような現場に、中学生を含む一般の皆さまが向かわれることは、二次災害に遭遇する危険も伴いますので、中学生の皆さまには、合同防災での訓練の成果を活かして、避難所の運営に携わっていただき、避難されてきた方々への支援をお願いできればと思います。

実際に、東日本大震災などの大規模災害時には、避難所の運営に中学生や高校生が大きな役割を果たしておりまして、例えば、支援物資の搬入や、配給を受け取ることが難しい方へ届けること、掲示板の更新作業を行うこと、それ以外にも、小さな子どもたちの遊び相手や、高齢者の話し相手をするなどがありました。

被災をすると日常が一瞬にして失われ、大人も子どもも大きなショックや不安を感じますので、若い世代の皆さまが運営に参加していただくことで、避難されている方々に勇気を与えることができますので、是非とも皆さまの元気な声を避難所全体に届けていただければと思います。

また、大規模災害発生時のような厳しい状況になるほど、人と人とのつながりがとても大切になりますので、行川学園の皆さまには、これからも継続して、地域との交流を深めていただくとともに、地域の防災訓練などに積極的に参加し、実際の避難所運営や孤立した方々の支援に活用していただければと考えております。

高知市が目指す「災害に強く、安全に暮らせるまち」では、「地域の防災力の向上」が柱の一つとなっております。行川学園の皆さまの地域に向かう姿勢や、実際に実施をされておられる取組は、たいへん参考になるものであり、今後も、本市の将来を担う皆さまと一緒に「地域の防災力の向上」に取り組んでまいりたいと考えております。

西部中学校 石本渚乃 議員：

3 番。

岡田咲 議長：

西部中学校 石本渚乃 議員。

西部中学校 石本渚乃 議員：

はい。

西部中学校の石本渚乃です。私は高知市の高齢化対策について提案させていただきます。

現在高知市では、高齢化が問題視されています。同じような問題を抱える徳島県上勝町では、地域

再生活動の1つとして「つまものビジネス」という取組が行われています。この取組では、地域資源である木の葉や野草を使った「つまもの」を利用しつつ、簡単な作業で高齢者も働ける場所の提供が実現されています。

書画カメラをお願いします。こちらのグラフをご覧ください。グラフを見てわかる通り、この先高知市では人口の約2分の1を65歳以上の高齢者が占めると言われています。また高齢化による高知市内の労働者の減少も予想されており、若者たちへの負担が大きくなると言われています。そこで、高知市でも高齢者が働ける場所の提供が必要だと考えました。

例えば、私の曾祖母は足踏みミシンで、使わなくなったジーパンをカバンにリメイクしたり、余った布で腕ぬきを作ったりして友達や親戚に配っていたそうです。このような戦後の物質不足を過ごしてきた世代ならではのアイデア、ものづくりの高い技術を何か生かせる方法が見つかるのではないのでしょうか。また、この取組をうまく活動につなげることができたら、地域の活性化にもつながるはずです。まだまだ課題や問題点はたくさんあると思いますが、誰もが住みやすい高知市の実現に向け必ず力になるはずです。そして実現に向けて、西部中学校生徒会も協力したいと考えています。高齢者が活躍できる場所の提供についてご検討していただきたいです。

桑名 市長：

市長。

岡田咲 議長：

桑名 市長。

桑名市長：

石本議員、ご質問ありがとうございます。人生100年時代を迎える中で、年齢に関わらず、自分らしく社会の中で活躍し続けることは、健康や生きがいにもつながりますので、働く意欲がある高齢者がその能力を発揮し活躍できる環境を整備することは大変重要なことと考えております。

今、世の中、人口減少問題というものがあるのですが、ご指摘のとおり、人口減少問題というのは高齢化社会になっていくということであり、そして、働く人たちが少なくなっていくということです。その影響は、どうなっていくのかというといえば、今、報道にもありますように高知でもそうなのですけれども、例えばバスの運転手さんがいなくなる、そうすると今度は車を運転しない高齢者の皆様方の移動というものが厳しくなるというような社会になっていきます。そしてまた、経済的に見ても、お客様がいて注文はあるのだけれども、そこのお店の中で働く人がいなければ、せっかくビジネスチャンスがあるのにそれを掴むことができない、要は、経済的にも縮小していくというのがこれから指摘をされている社会問題でございます。そして、それを補うためには、やはり、働く意欲のある方には大いに働いていただく、そんな場はつくっていかねばなりません。私が社会人になったとき、これは昭和の時代ですけれども、その当時は、各会社とも定年が55歳の時代でございました。そして、それが60歳になって、そして次は65歳まで定年が延びていくというのが今の社会の状況でございます。ですから、大いに働ける人は働いてもらいたい。ただ、一生懸命働いてもう疲れたという人は休んでもらうことも大切です。しかし、地域貢献のためにこれまでの経験や技術というものを負担のない中で発揮をしていただく、そういった場づくりというのは、高知市としてはしっかりつくっていかね

ればならないと考えております。

そして、高知市には今、高知市シルバー人材センターというものがございます。ここでは、民間企業から依頼を受けた仕事を、会員登録している高齢者に提供し、そして、仕事と人材のマッチングを行っております。また、こういった仕事以外にも、ゴミの分別や買い物、そういったことのお手伝いをする、困りごとを解決するということで、500円でお手伝いするワンコインサービスという取組も行っております。

そしてもう一つは、高知市では、ボランティア活動を行った市民に対して、商品券と交換できるスタンプを付与するこうち笑顔マイレージという取組を行っておりますけれども、高齢者の皆さんも、その経験や特技を活かしながら、ボランティアとして様々な活動を今もしているところでございます。

こういったものをさらに広げて、働く人は働いていただき、また、地域に貢献してもらう人は貢献してもらう、そのような社会をつくっていきたいと思います。

今回、石本議員さんからは、誰もが住みやすい高知市の実現に向けて、西部中学校生徒会としても協力したいとお申し出をいただいたことは本当にありがたく、心強く思っているところでございます。

高齢者を含め、だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らし支え合えるまち、共生社会を実現するためには、より多くの方に参画していただく必要があると考えておりますので、一緒に考えていきたいと思っております。ご質問ありがとうございました。

城北中学校 明坂恭典 議員：

4 番。

岡田咲 議長：

城北中学校 明坂恭典 議員。

城北中学校 明坂恭典 議員：

はい。

城北中学校の明坂恭典です。自転車の乗り方の改善について質問します。

城北中学校では、自転車の乗り方について地域の方から苦情が入ることがあります。例えば、数人が自転車を並列運転している生徒がいて危ない。スマートフォンを見ながら運転している生徒がいて危ない、といった内容です。これら地域の方々からの言葉は、私達自身の安全を考えてくださるとともに、地域の方々も安心して生活をするためのものだと思います。また実際、マナーの悪い生徒を見かけたとき、地域の方は私たちに直接声をかけてくださることがあります。そういった、私たちのことを考えてくださっている地域の方々のためにも、生徒会として自分たちの学校の自転車の乗り方のマナーについてより良いものにしたいと考え、定期的に自転車の乗り方の改善に向けて活動をしています。

例えば、自転車のステッカーがきちんと貼られているか、鍵をかけて指定した場所に駐輪しているかなど、朝点検をしています。また下校時には、学校周辺の道路に委員さんや執行部が立って、自転車通学の生徒が車や地域の方の歩行の邪魔にならないよう、注意を呼び掛けています。

駐輪している自転車に対する点検活動を行った結果として、違反している人数が減ったり、自転車

の乗り方が改善されたりしました。しかしそれは一時的な変化に過ぎず、数週間経過すると元の状態に戻り、私たちが注意を呼び掛ける目の前でも、実際に並列運転をして帰る生徒や、自転車を二人乗りしている姿などがあるのが現状です。

私たちは、自分たちの取組について精一杯やっているつもりではありますが、地域安全に向ける気持ちが全校生徒に伝わっていなかったのかと感じています。しかし、実施回数を増やしたり守っていない人に対して何かペナルティを加えたりということは考えていません。これら私達の取組についての評価と、他に取り入れるべき取組のアイデア、例えば地域の方と連携した取組など、教えていただきたいです。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

岡田咲 議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

城北中学校の生徒会の皆さんが、自転車の乗り方のマナーについてより良いものにしたいと考えられ、定期的に自転車の乗り方の改善に向けて活動をしていることは、大変素晴らしいことであり、頼もしく感じています。

生徒の自転車の乗り方の改善が一時的な変化に過ぎないことも少なくないようですが、このような取組みを地道に続けていくことが、交通事故を1件でも無くすために何よりも大事なことだと思います。

自転車は手軽な交通手段であり、免許も必要ないことから誰でも運転することができる便利な乗り物ですが、交通法規を守らなければ、誰もが重大な交通事故の当事者になる可能性を有しています。

近年、交通事故全体の件数は減少傾向にありますが、自転車関連の事故件数は令和3年に増加に転じており、その特徴としては、自転車対歩行者事故の発生件数はその4割近くが歩道上で発生、また、自転車関連の事故の約9割は自転車側にも何らかの法令違反が認められています。

このような状況をうけ、今年5月に公布された改正道路交通法では、16歳以上を対象とした自転車の交通違反通告制度、いわゆる反則金制度が適用となり、自転車走行中の携帯電話の使用、信号無視、指定場所一時不停止等の113種類の違反行為が対象となっています。

中学生の皆さんも、対象が16歳以上だから私たちにはまだ関係ないと思わず、日頃から交通ルールをしっかりと守るように心掛けていただきたいと思います。

本市では、交通事故の発生防止を目的とし、市民総ぐるみの運動を展開するため、小学校区単位に地域の方や団体で組織する校区交通安全会議があり、交通安全の推進に努めていただいております。

今後、城北中学校の皆さんと意見交換の場を設け、連携できることについて話し合っていければと思いますが、例えば、校区交通安全会議の皆さんと城北中学校の皆さんが、学校周辺での街頭指導などを一緒に行うことで、さらに皆さんの交通安全の意識づけにもつながるのではないかと考えていますので、ぜひ一緒に取り組んでいきましょう。

城西中学校 島崎輪 議員：

5 番。

岡田咲 議長：

城西中学校 島崎輪 議員。

城西中学校 島崎輪 議員：

はい。

城西中学校の島崎輪です。高知市の今後の部活動地域移行について質問させていただきます。

近年、中学校では、部活を担当してくださる先生が不足している傾向にあります。そのため、入部している生徒はきちんと練習をすることがなかなかできず、先生方も授業等の仕事があり、部活動の指導を行うことは現実的に考えて難しいという話をよく聞きます。私たち生徒も先生方も部活動を行うための十分な環境ではありません。そこで、地域に根ざしているスポーツクラブやスポーツ少年団等の方に活動に移すというのが、部活動地域移行です。それにあたってのメリット・デメリットもあります。メリットでは、先生方の負担が減り、働き方改革につながるができる。専門家の指導を受けることができ、生徒たちも十分に活動を行うことができる。そして、子どもの選択肢がスポーツを通して幅広くなるというメリットがあります。ですが、デメリットもちろんあります。デメリットとしては、指導者や施設など、地域での受け皿の確保が難しい。家庭の経済負担が増加し、経済格差によって勝利至上主義に陥る可能性があるという点です。現在、城西中学校でも陸上部はりょうまスタジアムで外部コーチに指導してもらっていますが、「練習は、学校でしたい」や「お金はあまりかけたくない」などという意見が多いです。

そこで、高知市立学校に、のびのびと中学生たちが部活動に励むことができる環境を作っていただき、高知におけるスポーツのイメージアップや、生涯に渡ってスポーツを楽しむことができるよりよい町づくりに、この志議会での提案を通じて、実現できることを願っています。

将来、高知市を担う若者たちのため、高知市のためにも検討していただきたいため、これらの具体的な説明をお願いいたします。よろしくお願いします。

松下 教育長：

教育長。

岡田咲 議長：

松下 教育長。

松下 教育長：

城西中学校の生徒の皆さんが、部活動地域移行について、当事者として関心をもち、メリットやデメリットについて具体的に考え、ご意見を頂けましたことを、とてもうれしく思います。

部活動は、中学校学習指導要領総則に教育活動として位置づけられ、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、子供たちがスポーツや文化、科学等に親しむ機会となるとともに、その活動を通して、人間関係の大切さを感じ、責任感、連帯感等を育むことのできる、教育的意義の高い

ものでございます。

部活動の地域移行にあたりましては、部活動に参加を希望するすべての子供たちが、これまで通りスポーツや文化芸術活動に親しむことができるよう、仕組みを構築していくことが必要であると考えております。

しかしながら、島崎議員のおっしゃられるように、様々な事情を抱える学校や地域において、部活動の地域移行を進めていくためには、地域の実情に合わせてメリット、デメリットを考慮しながら改善策を模索していく必要があります。

部活動を地域に移行するメリットは、先ほどもございましたように、活動が継続できること、専門的な指導を受けることができること等がありますが、デメリットとしては、活動に係る費用が参加者の負担となることなど、指導者の確保等と併せて課題があります。

高知市教育委員会におきましては、令和５年度から、関係機関やスポーツに携わる皆さまと「高知市持続可能なスポーツ・文化芸術活動のための部活動環境整備検討委員会」において協議を行っております。

本協議会は、これまで学校が担ってきた生徒の運動や文化芸術活動への参加の機会を地域のクラブ活動等と連携して保障することを目的として協議を行っており、現在実施されている学校の部活動を地域と連携した活動へ移行していくための方策を検討しているところでございます。

現在、本市では、８つの地域スポーツ団体が高知市教育委員会に申請を行い、学校や地域の施設等で活動を行っておりまして、本協議会の協議内容には、地域クラブ活動との連携の在り方、指導者を確保する方法に加えて、特定の競技について実施拠点となる学校を指定し、複数の学校から活動に参加する拠点校方式の実施等について、委員の皆さんと検討しているところでございます。

今回頂いたご意見につきましては、当事者である中学生からの貴重なご意見として、検討委員会にご紹介させていただくこと等を通して、本市の中学生がスポーツや文化、芸術活動に参加する機会を保障できるよう努力してまいります。ありがとうございました。

愛宕中学校 尾崎美緒 議員：

６番。

岡田咲 議長：

愛宕中学校 尾崎美緒 議員。

愛宕中学校 尾崎美緒 議員：

はい。

愛宕中学校の尾崎美緒です。自転車ヘルメットの着用率を上げる取り組みについてお伺いします。

皆さん、まずはこちらをご覧ください。書画カメラお願いします。これは、愛宕中学校の生徒の通学時の様子です。ヘルメットを着用して登校している生徒もいますが、着用していない生徒が多くみられます。

令和５年４月１日から、自転車運転でのヘルメット着用が努力義務とされています。しかし、着用していない生徒が多くいるのはなぜか、愛宕中学校の生徒にアンケートを取ったところ、こういった意見が出てきました。

生徒会では、「形がダサイ」「値段が高い」という意見に着目し、「ヘルメットの種類や助成金について周知すればどうか」という意見が出ました。生徒の中には、ヘルメット購入の際に助成金が出ることを知らない生徒もいたため、助成金が出ることや、実際にどれくらいの金額がかかるのか、どんな種類のヘルメットがあるかなどを、ポスターを制作して広報することにしました。書画カメラ終わります。こちらがそのポスターです。また、クラスで生活安全委員会を中心にヘルメット着用の呼びかけを行ったり、昼の放送で「Traffic Safety News」を読んで周知したりしていますが、なかなか着用率は上がらず、どうしたら良いか悩んでいます。

他にも何か、私たちにできる取り組みがないかと考えているのですが、高知市で行っていて愛宕中学校でも行えるような取り組みや、私たちも一緒に参加できるような取り組みがあれば教えていただきたいです。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

岡田咲 議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

まずは、自転車乗用時のヘルメットについて、その必要性や着用を促す仕組みをしっかりと考えていただきありがとうございます。

愛宕中学校では生徒会の皆さんが中心になって、ヘルメットをなぜ着用しないのかを調査し、その解決策として広報ポスターを作られたことは素晴らしい取組だと思います。

昨年4月の自転車のヘルメット着用努力義務化を受け、同年10月に警察庁が全国一斉にヘルメットの着用率の調査を行ったところ、高知県は13.4%と、全国平均の13.5%とほぼ同じ結果となりました。

一方で、同じ四国にある愛媛県は着用率59.9%で全国一位となっています。その背景には、高校生が命を落とした10年前の自転車事故があり、県立高校でのヘルメット着用義務化があるようです。

自転車乗用時にヘルメットを着用することは、万が一の事故の際に命を守るという点でその効果が大きいことは言うまでもなく、それは子どもにも大人にも言えることであり、一人一人が「命を守る」ということを自ら考え、ヘルメット着用の必要性を理解し、行動に移すことができるようにすることが重要だと思います。

本市では、春・秋、年末年始の交通安全運動、広報あかるいまちへの掲載やチラシの配布等による啓発、交通関連イベントでの自転車の安全利用に役立つ交通ルールクイズやヘルメットの展示などにより、全ての方にヘルメット着用の重要性を理解していただく取組を行っているところです。

さらにヘルメット着用率を上げるため、質問議員さんから提案のありました、愛宕中学校の皆さんにも参加していただく取組として、まずは、交通安全運動期間中の啓発ポスターに愛宕中学校の生徒会の皆さんが作成したポスターを使わせていただくことなどはいかがでしょうか。

このような啓発活動と一緒にすることで、愛宕中学校の皆さんが自ら率先してヘルメットを着用することに繋がり、地域や社会全体にも良い影響を及ぼすことができるのではないかと期待するところです。

城東中学校 齊藤史季 議員：

7 番。

岡田咲 議長：

城東中学校 齊藤史季 議員。

城東中学校 齊藤史季 議員：

はい。

城東中学校の齊藤史季です。高知県の人に地域の魅力を知ってもらうための取組について質問させていただきます。

城東中学校では、今年も10月に城東マルシェを開催する予定です。「城東マルシェ」は、地域一体型のイベントです。生徒が主体となってお店を出店・経営し、地域の方々との交流を深めるイベントです。昨年度は、初めての開催でしたが、初めてとは思えないほど、どのお店も行列ができていました。今年度二回目となる開催なので、昨年度よりさらに盛り上げたいと考えております。現在、商品のポップ作りや宣伝の仕方について各クラスで話し合っているところです。

高知市では、高知の魅力を伝える際に、どのようなことに取り組んでいますか。

よさこいでは、多くの観光客が高知を訪れ、楽しむ姿が見られます。多くの人に楽しんでもらうための工夫点を教えてください。

様々な方が楽しんでいただけるような工夫点や宣伝方法について一考していただけたらと思います。ご回答よろしくお願いします。

今西 商工観光部長：

商工観光部長。

岡田咲 議長：

今西 商工観光部長。

今西 商工観光部長：

ご質問ありがとうございます。城東中学校の皆さんのような、若い世代の方々が、イベントを更に盛り上げようと、本市の観光行政に興味を持ち、自分たちにできることを真剣に考えてくださっていることを、大変嬉しく思います。

昨年、初めて開催された城東マルシェは、「城東中から地域の未来をより良くするためのムーブメントを巻き起こす！」とのキャッチフレーズの下、生徒の皆さんが主体となり、地域の19企業と連携した、地域活性化に繋がる素晴らしいイベントで、大変盛況であったとお伺いしています。

さて、ご質問の高知市の魅力を伝える取組についてですが、本市では、まずは、高知市の良さや、イベントについて、多くの皆さんに知ってもらい、次に、実際に訪れていただくことで、より深く魅力を体験し、高知市のファンになっていただくことが重要と考えています。

その一例として、現在、高知市が行っている、観光情報Instagramの取組みについて紹介させ

ていただきます。

高知市の観光情報Instagramでは、パンフレットでは紹介しきれない観光コンテンツの側面や旬の情報等を中心に、定期的に発信をしています。

定期的に発信することにより、フォロワーの方や高知市に興味がある方に対し、高知市の観光情報が検索画面に表示されやすくなり、露出量が増えることから、高知市の情報をお届けできる機会が増えるものと考えております。

また、アカウント上のプロフィールから、高知に関連するWEBページへリンクしているため、高知について、より深い情報を知りたい方を誘導することができ、旅行先として検討していただくチャンスを出ることが可能と考えております。

また、旅行中・旅行後の方に対しても、参加型のハッシュタグキャンペーン等の開催により、旅行をより楽しんでいただけるだけでなく、旅行の後にも写真を投稿することで、高知を思い出す機会が生まれ、改めて、高知の良さを感じていただけると共に、投稿者から高知を訪れた情報が発信されることで、旅行先を検討している方の興味に繋がり、より高知に訪れる観光客数を伸ばすことができるものと考えております。

こうした取組みが功を奏し、現在、高知市の観光情報Instagramはマイクロインフルエンサーとして位置づけられる、フォロワー数1万人を超えることとなりましたが、さらに多くのみなさんに高知市を知っていただき、ファン層を広げるために、閲覧の多い昼休みや夕食後などの時間帯を狙い、ストーリーやリポスト機能を活用した情報発信に取り組んでいます。

城東中学校の皆さんも、例えば、イベントの準備の中で感じた様々な思いや感動、再発見した地域の魅力などを、SNSや、学校のホームページなどで楽しみながら発信し、イベント開催への思いを拡散することができれば、城東マルシェについて、多くの方から共感してもらえ、応援をしていただけるのではないかと思いますし、よろしければ、高知市観光Instagramのフォロワーにも、城東マルシェについて、広報させて頂ければと思います。

齊藤議員さんをはじめ城東中学校の皆さんが、地域の方々との交流を深め、地域の魅力を発信しようと、城東マルシェを開催されることは、魅力的なまちづくりにも通じる素晴らしい取組みだと思います。

最後になりましたが、城東マルシェの成功と、地域の方々との交流が、皆さんにとって有意義な経験となりますことをお祈りしております。

潮江中学校 大野藍 議員：

8番。

岡田咲 議長：

潮江中学校 大野藍 議員。

潮江中学校 大野藍 議員：

はい。

潮江中学校生徒会では、コロナ禍以降、地域に出向き、子ども食堂について調べたり、地域清掃ボランティアを企画したり、潮江南夏祭りや筆山清掃ボランティア、よさこい梅の辻給水ボランティア

など、地域とつながる活動をしてきました。また、中学生が地域のためにできることを考える、「高知市社協との会」を定期的に行い、私たち中学生の思いと、地域の願いをすり合わせてきました。

その中で見えてきたことは、大人が潮江を住みやすい街にするために頑張っている姿と、人手不足で、今とても困っているということです。地域の担い手である私たちの親世代が、町内の活動に関心が少ないことで、多くの地区で町内会が徐々に停滞し、次世代に託すことができずにいるということです。そこで、そもそも町内会がどのような活動をしているのかを調べることにしました。自主防災会や資源ごみの分別収集、街路灯の管理など、多岐に渡っていることを知り、また、高齢化や空き家問題などに加え、全世帯が町内会に加入しているわけではない、ということもわかりました。様々な問題を抱えている町内会のために私たち中学生ができることは、少ないかもしれませんが、何か役に立てることはないか、地域の方と一緒に考えているところです。

そこで、お聞きしたいことがあります。あかるいまち7月号の特集にも、わかりやすく町内会の役割と活動している人の声などが掲載されていましたが、高知市は10年後、20年後の未来、町内会がどうなっていくのか、危惧されることは何か、そしてどのような対策を考えていらっしゃるのかを教えてくださいたいです。

お答えいただいた回答を学校に持って帰って、今後の私たちの活動の参考にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

岡田咲 議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

ご質問ありがとうございます。潮江中学校では、若い世代の皆さんが生徒会を中心に、地域活動について考え、実際に地域の皆さんと一緒に活動されていることについて、大変うれしく思っています。

町内会や自治会といった地域団体は、私達にとって一番身近な存在で、地域コミュニティの中核ともいえるもので、その役割は、質問議員さんからもありましたとおり、町内の外灯や資源・不燃物等のごみ集積所の維持管理、そして各種情報の回覧、住民の皆さんの親睦を深める行事の実施など、多岐にわたっています。

一方、本市では、近年の人口減少等により町内会の役員等の担い手不足や町内会への加入率の低下といった課題が深刻化してきており、特に若年層はここ10年で2割も減っていることから、このまま、何の対策もできずに推移すると、10年後、20年後には、ますます町内会の担い手が不足し、様々な地域の活動に影響がでてくることも想定されます。

このように申し上げますと、暗い将来像を思い浮かべるかもしれませんが、人口減少が進んでいる状況であるからこそ、地域の皆さんが世代や分野を超えてつながり、他人を思いやり、お互いに助け合える地域共生社会の実現が重要になってまいりますので、今後、地域においては町内会等の存在の必要性がますます高まってくるものと考えています。

そこで、本市では、町内会等の取組を知らない方や取組に参加することが難しい方に対して、あか

るいまちをはじめとする市の広報等でその役割をしっかりと伝えていくとともに、高知市町内会連合会とも連携し、町内会等の活動に対する支援の充実を図ってまいります。

また、地域に目を向けますと、今年のよさこい祭りでは、皆さんの地元の梅ノ辻町内会が地域の活性化を目指して立ち上げた、よさこい唯一の町内会チーム「梅乃連（うめのれん）」が、5年ぶりに復活しました。

「子どもや孫へ町内会チームをつなげたい」「地域を盛り上げたい」といった踊り子の皆さんの想いが形となり、下は4歳から上は71歳までの約80人が参加されたとお伺いし、頼もしく感じたところです。

このように、若い世代の方々と町内会の皆さんと一緒に活動することで地域がますます活性化するように、本市といたしましてもできる限りの支援を行ってまいりますので、もっとこんな活動がしたい、こんなことで困っているというようなことがありましたら、いつでも先生や地域の方を通じてご相談いただければと思います。

一宮中学校 高瀬琉風 議員：

9番。

岡田咲 議長：

一宮中学校 高瀬琉風 議員。

一宮中学校 高瀬琉風 議員：

はい。

一宮地域をアピールし、活性化するための方法についてお伺いします。

私たちが通う一宮中学校では、コロナウイルス感染症をきっかけに、校外学習や地域の方々と交流できる活動が減ってしまいました。執行部では一宮地域をよりよい環境にすることや、地域の方々と関わる機会をつくるために、自分たちで計画して清掃活動に取り組んでいます。しかし、この活動のなかでは、地域の方々とはあいさつやその時に必要なことしかできず、交流が十分とは言えませんでした。これをふまえ、一宮地域に根ざしたもので、より地域の方々と交流できる活動とはどのような活動かを考えました。それは、一宮地域の特産品である徳谷トマトを活用した商品を作り、販売する活動を行えば、商品の制作過程や販売時に今までよりも地域の方々と関わり、一宮地域のために協力して活動していけるのではないかと考えました。また、この活動を通して今まで知らなかった、気づかなかった地域の魅力の発見、発信ができると考えました。現在高知県では少子高齢化が進み、県民の力で県全体を活性化することが求められています。そのための活動を大人に任せきりにせず、私たち中学生が自ら進んで取り組んでいくことで一宮地域の活性化につながると考えました。

そこで、私たちの住む一宮地域をアピールし、活性化するための活動としてどのような方法があるのか、どのくらいの規模でどのような人々と協力すればよいか質問させていただきます。

宮地 農林水産部長：

農林水産部長。

岡田咲 議長：

宮地 農林水産部長。

宮地 農林水産部長：

ご質問ありがとうございます。一宮地域の特産品のアピールなどを通じた、地域の方々との交流による地域の活性化についてお答えいたします。

一宮地域の特産品として、御質問にもございました「徳谷トマト」が挙げられます。このトマトは、現在11軒の農家の方々に栽培されており、高糖度トマトの先駆けとして商標登録もされました、高知市が全国に誇るブランドの農産物となっています。

「徳谷トマト」が、どうして一宮徳谷地域で栽培されるようになったのか、将来に向けてこのブランドをどのようにしていきたいのか、そのために今どんな取組をしているのか、現在栽培されています農家の方々の思いを直接お聞きし、自分たちで何ができるか考えてみることで、地域の活性化につながる一番の近道だと考えております。

これから取り組んでいくための参考事例といたしまして、同じ高知市内の学校の取組を紹介させていただきます。土佐山地域にあります土佐山学舎では、生徒のみなさんが中心となりまして、「地域の一員として地域に貢献する」という思いのもとに、県内外へ広く土佐山の魅力を伝えるため、土佐山地域の特産品であります「ゆず」のアピールを通じて、生産者の方々とも協力した地域活性化に取り組んでいるところであります。

この取組で生まれたのが、毎年11月に開催しています「土佐山ゆず祭り」でありまして、今では高知市の恒例のイベントとなっています。市内の企業と協力した新たな商品開発や、開催資金の確保、マスコミ等へのイベントのPR、地域の名所を取り入れたキャラクター制作など、生徒自らが行い、地域の方々も積極的に協力するなど、素晴らしい取り組みとなっています。

一宮地域には、徳谷トマトという特徴的な農産物をはじめ、「しなねさま」など様々なお祭りやイベントがありまして、他にも市役所の私たちが気付いていない、様々な地域の資源がたくさんあると思います。

まずは、地域に踏み出してみましよう。農家の方とお話をしたい、一宮の歴史を調べたい、地域のお祭りを知りたい、なんでも構いません。地域活性化のヒントは、身近なところにあると思います。皆様方の活動に対し、学校の先生も、市役所も、全力で応援します。

青柳中学校 高野由唯 議員：

10番。

岡田咲 議長：

青柳中学校 高野由唯 議員。

青柳中学校 高野由唯 議員：

はい。

地域の公園の環境衛生について質問させていただきます。

最近、地域の公園を利用していると、いつ行ってもゴミなどが落ちています。ゴミの種類は、主に

お菓子の袋類・ペットボトルなどです。なぜゴミ箱を公園に設置しないのでしょうか。以前置かれていた場所もゴミ箱が撤去されています。撤去された理由として、公園のゴミ箱は大きいので、市の職員の方が分別するなど管理が大変であること、また、ゴミ箱にゴミが溜まると不衛生であることが理由なのではないかと考えました。このままゴミが放置された公園を利用する方のことを思うと、私たちにも何かできるのではないかと思います。

また、なぜいつもゴミが公園に捨てられているのかについても考えました。元々ゴミが落ちている場所は、捨てやすい雰囲気があることが要因になるのではないのでしょうか。これ以上ゴミが捨てられないようにするために、今よりもっと環境美化に取り組むことが大事です。そのために、地域の方たちが公園を清掃する日に、青柳中学校生徒会も共に清掃活動に参加したいと思います。併せて、清掃の他に、ゴミを捨てにくい環境にするために、花壇などを作ってはいかがでしょうか。可能であれば、清掃ボランティアの他に、花壇を作ることに協力させていただければと思います。よろしくお願いします。

福留 都市建設部長：

都市建設部。

岡田咲 議長：

福留 都市建設部長。

福留 都市建設部長：

公園に関するご質問をいただき、ありがとうございます。青柳中学校の皆さんが、身近な公園に関心を持っていただいていることを大変うれしく思います。

ご質問にありました公園のゴミ箱につきましては、以前は多くの公園でゴミ箱を設置していましたが、一部のマナーの悪い人が家庭ごみを持ち込むことや、カラスなどによりゴミが散乱するなど問題が大きくなったことから、ゴミは各自で持ち帰っていただくというルールに改め、これまで本市が設置していた公園のゴミ箱は撤去しています。現在は、公園など公共の場にゴミを捨てる行為を防止するため、ゴミのポイ捨てが多い場所に注意看板を設置するなどの対策を行っています。しかしながら、ゴミを捨てる行為は、依然として見受けられる状況で、対応に困っているところです。

高知市内には大小あわせて700を超える公園があり、ゴミ等の清掃につきましては、本市が委託した業者だけでは対応できませんので、地域の皆様に結成された公園愛護会などのボランティア活動によるご協力をいただいています。

今回ご提案いただきました、青柳中学校の生徒会の皆様による公園の清掃ボランティアや花壇づくりなどの活動は、ゴミを捨てにくい雰囲気をつくるなど、公園利用者一人ひとりの美化意識を高めることにつながる素晴らしい取組と考えますので、後日、担当課から詳細について相談させていただき、ぜひ実現させたいと思います。

今後も地域の皆様のご協力をいただきながら公園の美化を図っていきますので、よろしくお願いします。

三里中学校 青木和宏 議員：

11番。

岡田咲 議長：

三里中学校 青木和宏 議員。

三里中学校 青木和宏 議員：

はい。

高知市の避難場所・避難路の整備状況について質問させていただきます。

三里中学校では、現在校舎の屋上が地震の際の避難場所になっています。しかし、以前に現地視察で来られた高知大学の岡村先生の話によると、海岸沿いに防波堤ができたことにより、南海トラフ大地震が発生したとき、想定される津波の高さが従来よりも大幅に高くなってしまう可能性が指摘されました。津波が引き、活動ができるようになるまでには8時間程度かかるとのことで、仮に校舎の屋上で津波から避難できたとしても、雨風をしのぐ道具や場所也没有ありません。また、隣接する三里保育園の園児も今の想定では一緒に避難することになっており、300名近くが長時間過ごすことは非常に難しいと考えられます。

そのため、三里中学校では、地震の際には校舎の北側にあたる大平山に避難することを検討しています。その避難路は、より安全に避難できるように、地域の方にも協力をいただき、草刈りなど避難路を整備する計画が進んでいます。

三里中学校の現状を踏まえ、私たちは高知市の他の避難場所についても、避難場所として指定されてはいるものの、避難場所として不安があったり、避難路が安全な状態ではない場所があったりすることがあるのではないかと考えました。

それらを踏まえ、私たちは以下3点について質問させていただきます。

一つ目は、避難路の確保や維持管理に対して行政としての支援や補助などをしていただけるのか、二つ目は高知市内の避難場所の指定基準について、そして三つ目は避難場所を安全に保つためにわたしたち中学生や地域住民にできることがあれば教えていただきたいということです。よろしくお願いします。

神谷 副市長：

副市長。

岡田咲 議長：

神谷 副市長。

神谷 副市長：

ご質問いただきありがとうございます。これからの地域を担う若い皆さんが、自分自身の視点を持って南海トラフ地震について学び考えていただいていることに大変心強く感じるとともに、私たちもいっそう頑張っていかなければならないと思いを新たにしたいところでございます。

まず、一つ目の避難路の確保や維持管理に関する行政の支援や補助についてお答えいたします。

避難路の確保につきましては、土地の所有者と地域の自主防災組織の間で承諾書を交わしていただいたうえで、高知市が避難路として現在343か所を指定しており、必要に応じて、高知市が転落防止用の柵や階段の整備、避難誘導灯の設置を行っています。

こういった避難路の維持管理につきましては、地域の自主防災組織の皆さんに、避難路の草刈りや樹木の伐採などの簡易な整備をお願いしており、整備のために必要な道具や燃料等の購入費用を高知市が補助しています。

また、台風により大規模な倒木や土砂崩れが発生した場合など、地域の皆さんだけでは対応できない状況となった場合には、高知市で避難路としての機能回復を行っています。

次に、避難場所の指定基準についてお答えいたします。

津波からの避難場所は、自然地形の高台や高い建物となりますが、建物の場合には、高知市で定めたガイドラインに基づき、最初に襲ってくる地震の揺れに耐えられる頑丈な建物であることや、想定される津波の高さよりも高い場所に避難スペースがあることなどを条件として指定しています。例えば三里中学校は、想定される津波の高さが最大で5メートルとなっていることを踏まえ、避難場所として屋上等を指定しています。

最後に三つ目の避難場所を安全に保つために中学生や地域の皆さんにお願いしたいことについてお答えします。

避難路につきましては、一つ目のところでもお答えしたとおり、地域の自主防災組織に平常時の維持管理をお願いしていますが、草刈りなどの避難路の整備にはかなりの労力が必要となります。皆さんのような若い世代のお力があれば、よりきれいで安全な避難路となりますので、ぜひご協力いただければと思います。

次に、施設につきましては、基本的には各施設の管理者の方、例えば三里中学校は学校の先生方に維持管理をしていただいております。津波避難タワーと津波避難センターにつきましては、高知市で維持管理を行っています。

こういった避難路や避難場所に関しましては、毎日校舎を使い、通学路を歩く皆さんだからこそ、気づくこともあるかと思うので、校舎や通学路において危険な箇所を見つけたり、新たな気付きがあった場合には、ぜひ学校の先生や地域の自主防災組織の方などに伝えていただきたいと思います。

青木議員さんのご質問にもありましたように、実際の津波の高さなど災害を事前に正確に予測することは困難ですし、ここまでやっておけば大丈夫だろうと過信することも逆に危険につながります。災害について学び、様々な状況をイメージすることで、いざという時にできるだけ慌てずに行動できるよう日頃から準備をしていくことが大事です。

これからの高知市という街を作り、南海トラフ地震という大きな災害に備え、それを乗り越えていくためには、皆さんの若い力と柔軟な発想が必要になります。

ぜひご家族や友人と防災について学び、地域の自主防災組織などの活動にも参加してみてください。皆さんご自身やご家族・ご友人・そして地域の皆さんの命と、安全で安心な生活を守るために、ぜひ一緒に頑張っていきましょう。

岡田咲 議長：

この際、約15分間休憩いたします。14時25分より会議を再開します。

【 休 憩 】

吉田莉都 副議長：

それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。議長を交替しました。ここからは、一宮中学校、吉田莉都が議事を進行します。よろしくお願いします。

朝倉中学校 浜田明音 議員：

12番。

吉田莉都 副議長：

朝倉中学校 浜田明音 議員。

朝倉中学校 浜田明音 議員：

はい。

朝倉中学校の浜田明音です。高知市の給食について質問させていただきます。

私は以前高知新聞で高知県内の給食残食率は2021年度小学校で3.7%，中学校で8.7%ということを知りました。中学校では，小学校に比べ倍以上残食率が高いことに驚きました。その原因として，小学校に比べ給食の量が増えたこと，小学校と比べてデザートや手巻き寿司などの給食の自由度が減ったことが挙げられるのではないのでしょうか。

朝倉中学校では昨年度給食の残食が20.3%ありました。今年の生徒会の目標として残食を減らすため，今年の5月に代表委員を中心に残食0バトルを行いました。この残食0バトルというのは各クラスの残食量をパーセンテージで表し残食が少ないクラスを表彰するものです。また，学校全体でみんなが給食を早く準備することも心掛けました。この取組によって，中には毎日残食が無いクラスもあり，その結果，残食率を12%にまで下げることに成功しました。高知市立針木学校給食センターでも各学校で残食率を計り，残食が一番少なかった学校が給食の献立をリクエストするという取組を行っています。朝倉中学校はこれからも残食を減らしていき最終的には全クラス残食がない状態にしたいと思っています。

私たちは，学校給食は食育について学ぶ大切な機会だと考えています。そこで調べてみると他県ではナイフとフォークを使ってマナーを学びながら食べるマナー給食やバイキング形式の給食，野菜を栽培して給食に使ったり，地元の名産品をいただいたりすることがあるそうです。食育の大切さを学ぶとともに食の楽しさを知れば，給食の残食率にも変化があるのではないかと思います。そこで現在，高知市ではどのような楽しい給食や食育の取組があるのか教えてください。

松下 教育長：

教育長。

吉田莉都 副議長：

松下教育長。

松下教育長：

朝倉中学校をはじめ、多くの高知市立中学校の給食を作っている、針木学校給食センター及び長浜学校給食センターでは、令和元年度のこうち志議会でのご提案を取り入れ、食育月間である6月に残食調査を行い、最も残食が少ない学校が献立をリクエストし、2月の給食でその献立を実施するという取組を継続しております。

この取組には、先程のご質問の中で朝倉中学校での取組のご紹介があったように、各学校が独自の工夫を凝らし参加していただいております。給食を食べることで、皆さんが必要な栄養量を取ることができるだけでなく、食品ロス削減という食育の取組にもつながりますので、今後も積極的にご参加いただきたいと思います。

食育は、様々な経験を通して、食に関する知識と食を選択する力を身に着けることであり、学校給食は、学校における食育の中心となるもので、生きた教材であると考えます。

そのため、高知市の学校給食では、入学・卒業のお祝いや端午の節句などの行事食、各地の郷土料理、高知市の米を使った米タルトや、鏡の梅干しなど、高知市の地場産物を献立に取り入れ、季節を感じたり、地元の食材に触れたりする機会を設けています。

また、月に一度は「高知の食べものいっぱい入っちゅう日」を設定し、さばや沖うるめ、りゅうきゅう、いたどり、ゆの酢など、高知県の食材をたくさん使った献立を実施しております。

これらの給食を実施する際は、食への関心を深めていただくために、使用している食材の栄養や歴史、産地、特徴などの豆知識や食に関連する情報を分かりやすくまとめ、掲示物やおたよりにして皆さんにお知らせしているところです。

その他、高知市学校給食会が主催する料理コンクールの受賞作品を学校給食に採用したり、小学校では、体験学習として校内や近隣の農園で収穫した野菜などを給食に使用したり、料理を皿鉢に盛り付ける給食や、主菜やデザートを選択する給食などを実施している学校もございます。

中学校の給食を提供している針木と長浜の学校給食センターにおいては、地場産物である新高梨ジャムを使った手作りのカットケーキを献立に取り入れ、令和5年度には、学校給食キャラクター「キューちゃんの味めぐり」と題し、全国各地の郷土料理や特産物を使った献立を毎月取り入れ、紹介する取組を行いました。

給食を楽しくおいしく、残さず食べることは、児童生徒のみなさんの健やかな成長に結びつくものであり、食育の中心となるものと考えておりますので、今後も、みなさんに伝えていきたい食の情報を取り入れた給食を実施してまいります。ありがとうございました。

南海中学校 廣瀬志穂里 議員：

13番。

吉田莉都 副議長：

南海中学校 廣瀬志穂里 議員。

南海中学校 廣瀬志穂里 議員：

はい。

みなさん、こんにちは。私は南海中学校の廣瀬志穂里です。本日は高知市の防災イベントについて

質問させていただきます。

年々、南海トラフ地震の脅威が高まってきています。高知市は地理的に見ても、地震や津波の影響を受けやすい地域です。私が住む南海中学校区は、高知海岸に強度の高い堤防が整備されたり、新川川の水門の計画が立てられたりしていますが、実際の津波が来たときにどうなるのか予想もできません。

何か起こった時のために、南海地区では地域住民が一体となって防災訓練を定期的に行っています。具体的な訓練内容としては、避難経路の確認、避難所の設営、非常食の配布方法の確認などがあります。

また南海中学校では毎年地域の方々とともに南海トラフ地震を想定した防災活動を行っています。「中学生が地域の防災リーダーに」という合言葉のもと、NSP 南海サバイバルプロジェクト部と生徒会が作成した防災マップを小学生や地域の方に配布をしたり、体験活動、学習ブースなどを消防団の方や高知大学防災すけっと隊などに協力していただき実施しました。学校では、いつ、どこで地震が発生するか分からないので、休み時間や教室以外で起こったことも想定して避難訓練を行っています。

しかし、同じような避難訓練になってしまい、やや緊張感が薄れてきてしまい、実際の地震・津波発生時に身の安全が確保されるのか心配しています。

そこで、最近、高知市で行われている防災イベントや、家族で参加できるワークショップなどがありましたら教えてほしいです。また、いつも同じ取組にならないようにするために、どのような工夫をされているのか教えてほしいです。

山崎 防災対策部長：

防災対策部長。

吉田莉都 副議長：

山崎 防災対策部長。

山崎 防災対策部長：

ご質問ありがとうございます。南海中学校の皆さまにおかれましては、NSP 南海サバイバルプロジェクトによりまして、地域住民と一体となり、避難訓練や様々な防災活動に取り組むことで、長浜地区における地域の防災力の向上に大きく貢献されておりますことに、厚く感謝を申し上げます。

本日は、これらの活動を継続し、発展させていくためのご質問をいただきまして、たいへん心強く感じております。

まず、高知市の取組では、高知市総合防災訓練を年1回実施しており、自衛隊や警察、消防などの関係機関や防災関連の民間企業にもご参加をいただき、車両やボートを使用した避難訓練など、関係機関が有する役割や機能、保有する資機材等を活用した訓練を実施しています。

また、来場した方が参加できる防災バッグ作りや様々な防災用品の展示ブースなどもございますので、南海中学校の皆さまにも、ぜひご来場いただければと思います。

更に、シェイクアウトイベントとして、謎解きをしながら防災について親子で学ぶ脱出ゲームを、毎年8月下旬ごろにオーテピアで開催し、好評をいただいております。今年は8月25日（日）を予定しておりますが、台風10号の接近によりまして協議中であります。

地域での防災学習や講習会では、災害時の避難所運営を図面の中で模擬体験できる「避難所運営ゲーム」や、災害時の備えについて子どもも大人も楽しく学べる「防災すごろく」、「防災かるた」などもありまして、また、地域の自主防災組織では、防災キャンプや、地区運動会と防災イベントを組み合わせた防災運動会などの様々な取組みが行われています。

次に、同じ取組にならないための工夫としましては、例えば、防災訓練で想定する災害について、災害の種別や発生状況、発生する季節や時間帯を変えてみるものが挙げられます。

このほか、高知県の南海トラフ地震対策課のホームページでは「自主防災活動事例集」が掲載されておりまして、県内各地域の様々な防災の取組みが紹介されておりますので、ぜひご覧になっていただき、今後の活動に活かしていただければと思います。

東日本大震災では、岩手県釜石市は津波などにより壊滅的な被害を受けましたが、海に面した鶴住居(うのすまい)地区にある鶴住居(うのすまい)小学校と釜石東中学校の児童・生徒約570人が全員無事に避難することができた「釜石の奇跡」という有名な話があります。

これは、生徒達が日ごろから繰り返し避難訓練を実施していたことから、災害時にも冷静に行動し避難ができたものであり、まさに日々の避難訓練の成果であると考えます。

南海中学校の皆さまが、継続して避難訓練や様々な防災活動に取り組んでいることは、釜石と同様に、災害時に命を守ることに繋がります。

南海中学校の皆さまの防災に関する取組が、今後も末永く継続していくよう、高知市としましても、地域の防災力の向上に向けた取組を継続して進めてまいりたいと考えております。

介良中学校 谷岡直翔 議員：

14番。

吉田莉都 副議長：

介良中学校 谷岡直翔 議員。

介良中学校 谷岡直翔 議員：

はい。

介良中学校の谷岡直翔です。交通安全に関しての質問をさせていただきます。

信号のない横断歩道では、歩行者がいたら一旦停止するというルールがどれぐらい浸透しているのでしょうか。生徒に聞くと止まってもらったことがないという生徒がほとんどでした。また、桂浜の花街道を横断するために横断歩道で待っていると、止まってくれる車が少なく、やっと止まってくれたのが県外ナンバーだったという話を聞きました。

介良中学校は高知市でも東の方に位置し、田畑や住宅地に囲まれた所に位置しています。通学に関しては駐輪場が少ないため、自転車通学はごく一部の生徒のみ許可されています。特に学校の周囲には車と歩行者がすれ違うのも難しいような道も多くあります。大きな道は割と整備されていますが、通学に使っている住宅街の道には横断歩道のマークや横断歩道ありを知らせるひし形のマークがほぼ消えているところがあります。そのためか、止まってくれない自動車も多く、特に夜は横断歩道に気づかず、危険を感じたこともあるそうです。これは介良中学校区だけに限ったことではないと思います。

本校では、毎年交通安全協会の方が来てくださっての交通安全教室が行われ、交通のマナーやルールについて学習をしています。生徒会でも、登校の安全指導も含めてのあいさつ運動週間も毎月行っています。また、高知東署の自転車盗難防止モデル校に指定されており、東署の方が来て下さっての自転車の施錠と交通ルールについての大切さを学習しています。ただ、現状として関係機関の施錠調査前に取り組みも強化していますが、今だ100%にならないのが課題です。

今のところ大きな事故はないですが、今後も安全安心な通学ができるよう、まずは可能であれば横断歩道やマークの整備について高知市からもお願いしていただきたいです。また、交通ルールについての啓発をどのようにしているのかを教えてくださいたいと思います。それを受けて中学生として協力できることを考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

吉田莉都 副議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

まずは、私たち大人が交通ルールを守れていないことで、生徒の皆さんの安全安心な通学の妨げになっていることを大変申し訳なく思います。

質問議員さんからもありましたように、横断歩道は歩行者が優先で、横断歩行者妨害は道路交通法違反となります。

しかし、一般社団法人日本自動車連盟が2016年に実施した調査によると、「信号機のない横断歩道で歩行者が渡ろうとしているのに一時停止しない車が多い」と回答した人が86.2%に達し、一時停止しない車が多いことが伺えます。

また、同連盟が昨年、信号機が設置されていない横断歩道を通過する車両を対象に調査を行ったところ、歩行者が渡ろうとしている場面で一時停止をした車は、全国平均が45.1%であったのに対し、高知県は35.3%と残念ながら全国平均よりも低い結果となっています。

本市では、市民一人一人が交通安全意識の高揚を図り、正しい交通ルール・マナーの実践を習慣づけるとともに、交通事故防止のため、市民総ぐるみで組織的な運動を展開していくことを目的に、春・秋、年末年始の交通安全運動をはじめ、交通安全教育に重点を置いた、児童・生徒への交通安全教室、大人も子どもも参加できる交通安全啓発イベントである「交通安全ひろば」の開催など様々な取組を行っています。

しかしながら、質問議員さんからもありましたとおり、まだまだ交通ルールやマナーが十分に守られているとは言えない状況ですので、交通安全について中学生として協力できることを考えていきたいとのご提案は大変心強く感じているところです。

ぜひとも、質問議員さんをはじめ介良中学校の皆さんと、情報共有、意見交換など行い、交通安全について何ができるか一緒に話し合っていければと考えております。

なお、横断歩道やマークの整備につきましては具体的な場所がありましたら、いつでも担当課であるくらし・交通安全課にご連絡いただければ所管の警察署にお伝えさせていただきます。

鏡中学校 植田 莉緒奈 議員：

15番。

吉田莉都 副議長：

鏡中学校 植田 莉緒奈 議員。

鏡中学校 植田 莉緒奈 議員：

はい。

お祭りの全国大会のような催しについて話させていただきます。

昨年度から「花回廊」や「土佐の伝統芸能まつり」が開催され、県内の芸能文化交流が始まりました。私たちも総合的な学習の授業で取り組み、地域文化の継承で「太刀踊り」を披露させていただきました。ありがとうございました。「花回廊」で踊る際には、スポットがまぶしすぎて、お客さんの表情は見えなかったのですが、発表し終わった後は、たくさんの方々に見ていただけたことで達成感もありませんでした。また、「土佐の伝統芸能まつり」では、演舞前にアーケードを練り歩いたことで、すれ違う人々に興味をもってもらうことができました。その際に、「これは女の子もやっているの？」や「いつ練習をしているの？」などの質問や「かっこいいね。」などという声をいただくことができました。何より、知ってもらうこともとてもよかったのですが、私たち自身も知らない素敵な文化が別の地域にあることを知り、高知の素晴らしさを改めて実感したことでした。

この文化を県内のみの披露で留めるのではなく、もっと多くの人に土佐の伝統芸能の面白さや高知の魅力を知ってもらうために、よさこいなどのように全国大会を高知で行うことができないでしょうか。また、世界への発信も含め、外国船クルーズの入港日等の際に太刀踊りをはじめ、高知の様々な伝統芸能を私たち中学生や高校生が披露して歓迎する等ができないでしょうか。是非、県外の方々や世界の方々にも知っていただき、将来的に移住なども考えてもらえるきっかけにならないでしょうか。「よさこい」のみでなく、この高知の素敵な文化を最大限に利用して人口増加にも繋げることができないかと思っています。

弘瀬 副市長：

副市長。

吉田莉都 副議長：

弘瀬 副市長。

弘瀬 副市長：

ご質問ありがとうございます。高知に伝わる地域の伝統芸能を、県内での披露にとどまらず、もっと多くの方に披露する場を設け、高知の文化芸能の面白さや高知の魅力を知ってもらい、将来的に移住のきっかけにすることはできないかのご質問についてお答えします。

鏡小学校、鏡中学校では、総合的な学習の時間に、地域の皆さんにご指導をいただきながら、地域の伝統芸能である太刀踊りに取組まれ、地域の秋祭りで踊りを披露したり、高知城でのイベントで披

露したりされているとのことで、伝統文化の継承や地域との連携を大切にしたい素晴らしい活動に熱心に取り組んでいただき、感謝を申し上げます。

植田議員さんをはじめ、鏡中学校の皆さんが参加された「土佐の伝統芸能まつり」は高知県の芸能文化を次世代に引き継ぐため、高知県が関係団体と協力して、昨年度はじめて開催されたものですが、このようなイベントを通じて、若い世代の方々に伝統芸能を体感していただくとともに、県内のみならず県外や海外からの観光客の皆さまにも地域文化を発信し、高知の内外からファンを増やしていく取り組みは、非常に大切であると考えております。

また、本市へのクルーズ船の寄港は、昨年度、過去最多となっており、寄港の際にはよさこい演舞をはじめとしたイベントや観光案内等のおもてなし事業を高知県と協力しながら進めているところでございますが、太刀踊りをはじめとする高知の様々な伝統芸能を国内外の観光客に披露することは非常に喜ばれますし、大変意義のあることですので、ご提案の主旨を踏まえ、ぜひそういった機会を増やしていきたいと考えております。

特に、来年の春からは“アンパンマン”を生み出したやなせたかしさんご夫妻をモデルとした NHK 連続テレビ小説『あんぱん』が放送されることから、多くの観光客の皆様が高知県に訪れることが期待されています。

さらに、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など様々な分野の取組と連携しながら、伝統芸能や文学、音楽、美術などの各種芸術、食文化などの生活文化等の活動を全国規模で発表、競演、交流する文化の祭典である「国民文化祭」が、天皇皇后両陛下にご臨席賜り、令和 8 年秋に高知県で初めて開催されます。

この国民文化祭には、全国から様々な文化団体が参加し、多くの皆さんが高知県に来られますので、本市でも、この絶好の機会を活かしながら、高知市の芸術文化を広く全国へ発信してまいりたいと考えております。

そのため、現在、様々な文化団体との連携事業や独自事業の開催に向けた検討を進めているところですが、検討に際しては、鏡地域の太刀踊りをはじめとした伝統芸能やよさこい祭りなど、高知の魅力を存分に PR できる事業を積極的に取り入れながら、文化振興や伝統芸能の継承はもちろんのこと、将来的な移住のきっかけにもつなげてまいりたいと考えております。

これからも、県外そして海外に向けて、地域文化の、そして高知の多彩な魅力発信に取り組んでいきたいと考えていますので、学校の皆さんにおかれましても、ぜひこれまでの取組を継続していただき、高知の魅力発信にご協力をお願いいたします。

旭中学校 鳴岡 三紘 議員：

16番。

吉田莉都 副議長：

旭中学校 鳴岡 三紘 議員。

旭中学校 鳴岡 三紘 議員：

はい。

旭中学校の鳴岡三紘です。プロや実業団の選手を招いて児童・生徒向けのクリニックの実施やプロ

スポーツの誘致などについて質問します。

現在、私はバスケットボール部に所属しています。今年の3月に元プロ選手が旭中学校に来てスキルクリニックを開催してくれました。練習内容はもちろん、練習をするときの考え方など、見本を交えて指導してくださり、とても分かりやすく刺激を貰える貴重な時間となりました。このことがきっかけで高知県内・市内部活動の活性化や競技力向上のために行っている具体的な取り組みがあれば知りたいと思いました。

数年すれば、部活動の地域移行が進んでいくと思います。指導者をどのように配置していくのかなど、まだまだ難しいところが考えられる中、プロの技術を身近に感じる機会を様々な競技で設ければ、練習のモチベーションの向上や県内からプロ選手やオリンピック選手の輩出など活性化につながると思います。

運営や参加のアナウンスなど中学生や生徒会が市と一緒に取り組むこともできると考えます。プロスポーツ選手を講師に招いた講習会の開催など、部活動の活性化や競技力向上のために行っている具体的な取り組みやスポーツイベントがあれば教えていただきたいです。ご回答よろしくお願いいたします。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

吉田莉都 副議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

プロスポーツ選手や実業団選手、オリンピックなど国際大会で活躍するトップアスリートを招いた、児童・生徒向けの本市の取組についてお答えさせていただきます。

本市では、令和6年4月に「第5次高知市スポーツ推進計画」を策定し、地元クラブチームへの支援と協力・連携により、地域の活性化や競技力の底上げをめざすとともに、子どもや若者がトップアスリートと交流する機会をつくる取組を行っています。

おもにキャンプや合宿など、国内外のトップアスリートの来高にあわせて教室やイベントを企画しており、その都度、学校やクラブチームに周知し、参加者を募集してきました。

いくつか例を挙げますと、毎年プロ野球のチーム・選手が行うキャンプや自主トレーニングにあわせて、市内のスポーツ少年団を対象とした野球教室や、実際に選手に学校を訪問していただき、授業の中でスポーツ交流する事業を行って参りました。

また、水泳やラグビー等のナショナルチームが本市で事前合宿を行う機会にあわせて、当該競技のクラブチームを対象とした交流事業等を開催しており、直近では、昨年7月に福岡県で開催された世界水泳選手権の事前合宿に来高したチェコとオーストリアの水泳チームによる、市内のスイミングクラブに通う小中学生との交流事業を実施しています。

その他には、企業と高知市とのパートナーシップにより、サッカーやバレーボール等、その企業に所属するトップアスリートを招いたスポーツ体験事業やイベントを年2回ほど実施しており、昨年は、今年のパリオリンピックにも出場した陸上の桐生祥秀選手をお招きし、スポーツをしたこと

のない子どもたちにもスポーツの楽しさを知ってもらえる内容の「かけっこ教室」を開催しました。

地元の高知ファイティングドッグスや高知ユナイテッドスポーツクラブなどに所属するアスリートを講師に迎えた、スポーツ体験教室等も年間を通して実施しており、こうした取り組みが部活動の活性化や競技力の向上に対しても、良い効果をもたらすものと考えています。

今後もトップアスリートとの交流の充実・強化に努めてまいりますとともに、先程ご提案いただきました、中学生や生徒会との協働につきましても、教育委員会と連携を図りながら、実現に向けた検討を行ってまいります。

横浜中学校 町田紺乃 議員：

17番。

吉田莉都 副議長：

横浜中学校 町田紺乃 議員。

横浜中学校 町田紺乃 議員：

はい。

横浜中学校の町田紺乃です。水道管の老朽化についてお尋ねします。

この意見は水道管の老朽化が能登半島地震で被災した地域の復興を遅らせているというニュースを見たこと、能登半島地震で水道管が破壊され、最大13万7千戸が断水し、解消までに5ヶ月を要したという新聞記事を見たことがきっかけです。

南海トラフ地震では能登半島地震をはるかに上回る規模になり、高知県は水道利用者の99%に当たる62万人が断水の被害に遭うと想定されています。本州から四国への交通手段は車、船、JR 及び飛行機ですが、南海トラフ地震が発生し、本州四国連絡橋が崩壊した場合、陸路による援助が困難になると考えられます。更に、津波が発生した場合は海路による援助も困難となり、地域外からの援助はほぼ不可能になると考えられます。このとき水道管の老朽化が進んでいたとしたら、命をつなぐ水が多くの人々に供給されなくなるという最悪の状況に陥ります。

高知市の水道管は今どのような状況なのでしょうか。更新計画を教えてくださいと思います。また、南海トラフ地震で被災した後の復旧についてどのように考えられているのでしょうか。南海トラフ地震の際も人々に水が行き渡るようにするため、水道管の現状と今後の計画、被災後の復旧についてどのように考えられているかを具体的に教えて下さい。

山本 上下水道事業管理者：

上下水道事業管理者。

山本 上下水道事業管理者：

松下 教育長。

山本 上下水道事業管理者：

水道管の老朽化に関するご質問をいただきました。ありがとうございました。順次、お答え申し

上げます。

本市では、1925年（大正14年）に水道事業を開始し、来年度で100年を迎えますが、市民の皆さまに安全でおいしい水を安定してお届けするため、整備した水道管は、令和5年度末現在で約1,630キロメートルになり、鹿児島から北海道旭川までの直線距離と同じになります。

老朽化の目安と言われる40年を経過している水道管は、約560キロメートルで、全体の約3割を超えておりますが、実際には、管の材質や、埋められている場所の土や地下水など周りの環境によって、40年から100年使用することができます。

南海トラフ地震に備え、災害に強く頼りになる水道を目指す本市は、大きな地震によって、断水の被害が大きくなる恐れがある重要な管路を最優先し、地震に強い新しい水道管に入れ替える工事も重点的に進めているところでございます。

例えば、町田議員さんが通学されている横浜中学校の南側には、「南部配水池」と呼んでいる水を貯めるタンクがございますが、針木浄水場でつくった水を、南部配水池まで送るための「送水管」などが重要な管路で、「基幹管路」と呼んでおります。

この「基幹管路」は約147キロメートルあり、令和5年度末までに約73キロメートル、49.8パーセントの耐震化が完了しましたので、引き続き、本市の目標である令和13年度末の67パーセントの達成に向けて、精力的に工事を進めてまいります。

最後に、被災後の復旧についてお答え申し上げます。

上下水道局では、被災後、速やかに復旧作業を開始するため、以前は棧橋通にありました本庁舎と資材倉庫を、津波による浸水リスクが無い針木浄水場の隣に移転し、あわせて、復旧作業に使う水道管など約700個の資材を備蓄しています。

水道管の復旧作業は、水をつくる浄水場などから下流側に向かって、順番に進めていくこととなりますが、質問にもございましたとおり、他都市からの応援が来ることができない場合は、上下水道局の職員や市内の水道工事の業者で行う必要があるため、復旧には想定以上の時間を要することが考えられます。

本市では、給水車の購入や、市民の皆さまに水を配るための給水基地の整備などにも努めておりますが、横浜中学校など避難所での給水活動を円滑に進めるためには、地域の皆さまの協力や連携も欠かすことができません。

お近くの地域で開催される防災訓練や給水訓練などには、ご家族やお友達もお誘いの上、ご参加をいただき、私たちとともに、いざというときに備えていただくようお願い申し上げます。

大津中学校 筒井琴香 議員：

18番。

吉田莉都 副議長：

大津中学校 筒井琴香 議員。

大津中学校 筒井琴香 議員：

はい。

大津中学校の筒井琴香です。私が今回質問することは、地域の方との交流をどのように増やせばい

いのか、ということです。2019年、コロナウイルス感染症という世界的に大きな出来事があってから、私たちの生活は大きく変わりました。毎日マスクをして授業を受け、友達との会話が楽しいはずの給食では黙食、様々な制限の中で学校生活を送ってきました。

新型コロナウイルス感染症は、昨年から5類感染症となり、少しずつ以前のように人との関わりができるようになった状況下で私たちがこれからしたいこと、できることを考えたときに思い浮かんだことが、以前のように人との関わりを大切にできる機会を増やしたいというものでした。

大津中学校では、地域の方と交流する1つの機会として「大津地区ボランティア清掃活動」を行っていますが、この活動ではあまり人との関わりを深めることができていない状況です。なぜなら、清掃活動に参加している生徒の人数が100人程度なのに対し、地域の方は数名程度の参加です。過去には地域の方の参加人数を増やすために、高知市が行っている七河川一斉清掃と同日に行ったこともありますが、現在、3月に移行したことで学校行事と重なり、実行できていません。

南海トラフ地震などでは、すばやい避難・復旧活動などを地域の方々と一緒に団結して行わなければいけないと思います。そこで私は「団結力の高い地域」を実現するために、地域の方々との交流の場をどのように増やせばいいのかという方法を教えてほしいです。

中城 市民協働部長：

市民協働部長。

吉田莉都 副議長：

中城 市民協働部長。

中城 市民協働部長：

大津中学校の生徒の皆さんが日頃から、清掃活動などの地域活動に取り組み、そして地域の皆さんと交流を深めたいという想いを持っていることについて、大変うれしく思うとともに、頼もしくも感じています。

昨年の7月19日に大津中学校の皆さんが長瀬公園と児童公園で実施された「大津地区ボランティア清掃活動」では、地域の皆さんの参加が少なかったということですが、事前に清掃活動があることをもっと多くの方が知っていれば、大勢の地域の方が大津中学校の皆さんと一緒に清掃活動ができたのではないかと思いますので、これからは事前に地域の皆さんへ広く周知していく工夫が必要だと感じています。

現在、大津地区では、10月に「舟入川一斉清掃」が、3月には「浦戸湾・七河川一斉清掃」と「舟入川一斉清掃」が一緒に開催されているほか、過去には「大津食品工業団地と学校通学路一斉清掃」が5月頃に実施されていました。

このような地域の清掃活動を主催されている「舟入川を美しくする会」や「大津まちづくり連携協議会」の皆さん、そして清掃活動を行う地域の町内会等の皆さんなどへ事前にお知らせし、参加できる方を募れば、多くの地域の皆さんに参加してもらえるようになるのではないかと思います。

また、「団結力の高い地域」を実現するためには、このような団体の皆さんと日頃から繋がりを持ち、情報を共有する機会を増やしていくことも大切なことですので、本市としましても清掃活動に関する事前周知はもちろんのこと、中学生の皆さんと地域活動団体の皆さんとが交流できる場づくりの

お手伝いをしていきたいと思っていますので、まずは地域コミュニティ推進課までご相談ください。

春野中学校 改田直隆 議員：

19番。

吉田莉都 副議長：

春野中学校 改田直隆 議員。

春野中学校 改田直隆 議員：

はい。

エアコンが設置されていない特別教室について質問させていただきます。

春野中学校は現在、各学級の教室にはエアコンが設置され、蒸し暑い夏も寒い冬もみんなが授業に集中できる環境が整っています。しかし、春野中学校の理科室と技術室にはエアコンがついていません。春野中学校の校舎は南北に分かれており、理科室は窓を開けても風通りが悪いです。また、技術室はプレハブのようなつくりになっていて、日差しの強い夏場は、各学級の教室以上に暑くなります。理科室も技術室も夏場は30度を超えることは普通で、場合によっては35度以上になることもあります。昨年の夏も授業中に熱中症のような症状が出て、数名が保健室へ行きました。

毎年、先生方も熱中症対策として、大型の扇風機を準備してくれたり、授業中でも水分補給を許可してくれたり、窓を全開にしたりとさまざまな対策をとってくれています。しかし、大型扇風機はプリントが散乱したり、理科室でガスバーナーや電子てんびんなどを使うときには絶対に使用できません。また、技術室では作業によって出た木くずが飛び散り、目が痛くなったりします。何より大型扇風機は、弱でも大きな騒音が発生し、先生の説明の声も聞こえなくなります。

私達も廊下の窓を休み時間の間から全部開け、少しでも風通しがよくなるように気をつけたり、水筒やタオルを特別教室へ持っていくように教科委員が声がけをしたりしていますが、それでも暑さ対策には十分ではないと感じています。学校の特別教室へのエアコン設置について考えていただきたいところですが、エアコンの設置には多額の予算が必要になってくると思います。ましてすべての学校への設置となると大変な金額になります。

そこで、エアコンに代わるような低コストで準備ができるものはないか考えましたが、まだ良い案が浮かびません。学校は私たちの大事な学び場であります。全校生徒が、安心・安全で快適に学習できる環境を整えるための良い方法があれば教えていただきたいです。

松下 教育長：

教育長。

吉田莉都 副議長：

松下 教育長。

松下 教育長：

特別教室のエアコン設置についてお答えいたします。

高知市教育委員会では、皆さんが学校生活において大半の時間を過ごしている普通教室を優先して、熱中症対策や衛生環境改善のために、エアコンを設置し、令和2年度の夏には、全ての普通教室でエアコンを使っていただけるようにしたところです。

一方、高知市立中学校及び義務教育学校後期課程の特別教室へのエアコン設置率は37パーセントとまだ設置が進んでいない状況で、気温の高い時期に、エアコンが設置されていない特別教室では、熱中症の予防をしながら授業を行っておられること大変心苦しく思っております。

特別教室へのエアコン設置が進んでいない理由として、本市の限りある予算で、まずは重大事故につながる恐れのある校舎等の老朽箇所の改修を優先して実施しなければならない状況がございます。

外壁や天井材の落下防止等、緊急性の高いものから整備を進めている状況で、特別教室のエアコン設置を優先的に進めることができていない状況です。

そうした中、高知市教育委員会では、今年度から高知市立学校の施設整備について検討する庁内組織を立ち上げ、老朽化の著しい校舎等の効果的な整備手法等を、新たな視点で検討を行っており、その検討に合わせて、特別教室のエアコンについても課題を整理しながら、設置の可能性について検討を行うよう予定しています。学校は私たちの大事な学び場であります。全校生徒が安心安全で快適に学習する環境を整えるための良い方法があれば教えていただきたい。改田議員さんの言葉の重みをしっかりと受け止めて、仕事をして参ります。ありがとうございました。

土佐山学舎 里見美咲 議員：

20番。

吉田莉都 副議長：

土佐山学舎 里見美咲 議員。

土佐山学舎 里見美咲 議員：

はい。

土佐山学舎の里見美咲です。私は、高知市と学校・生徒が協働して高知のために活躍できる場の設定について提案させていただきます。

皆さんは「土佐山学」をご存じですか？ 私たちの学校、土佐山学舎では総合的な学習の時間に「土佐山学」と題して、地域の課題解決に取り組んでいます。その中で、今年の9年生は、外国の方々を土佐山に招き、英語で土佐山の観光案内をするツアーを計画しています。書画カメラお願いします。昨年度は、高知市役所の地域活性推進課・移住定住促進室の方々と協働し、高知県に移住してきた人・移住したいと思っている人を土佐山に招き、観光案内やこんにやく作り体験をしました。その後の反省では、「自分たちだけで地域おこしをするのは難しいが、市や公的機関と協働することで無事に大きなプロジェクトを成功させることができた。」などといった意見が出ていました。今年度も、より一層地域おこしに力を入れたいと考えています。書画カメラ終わります。

高知市と学校・生徒が協働しツアーを企画することで、県外や国外に高知の魅力がアピールでき、高知県が最近力を入れている関西進出にもより近づけるのではないかと思います。また、中高生の職場体験の場としても活用することで、高知県の未来の優秀な人材育成や人口減少に歯止めをかけることができるのではないかと考えます。同時に、外国の方向けのツアーをすれば、学んだ外国語を生か

せる場としても活用できます。

これらのことから、私は高知市と学校・生徒が協働してツアーを設けてほしいと考えました。ご回答よろしくお願いします。

今西 商工観光部長：

商工観光部長。

吉田莉都 副議長：

今西 商工観光部長。

今西 商工観光部長：

ご質問ありがとうございます。土佐山学舎の皆さんが学ばれている「土佐山学」は、テーマに「地域」、「キャリア」、「コミュニケーション」を掲げ、恵まれた土佐山地域の環境と地域の教育力を強みに、大きな夢と高い志をはぐくむ学びであり、令和4年度には博報賞を受賞され、全国的にも知られた素晴らしい教育活動と認識しています。

昨年度の「土佐山学」の中での気づきを踏まえ、今年度、より一層の地域おこしの実施を検討するにあたり、本市と協働での観光客向けツアーをご検討くださっていることを、大変嬉しく思います。本市が、帯屋町アーケードに設置している外国人観光客に対応した観光案内所「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」では、高知新港にクルーズ船で寄港した外国人観光客を対象としたショッピングツアーを実施しており、ツアーに参加したイギリス人観光客が、着物姿で帯屋町等を散策しながら、サンゴ製品の鑑賞や土佐茶の試飲等、高知ならではの買い物を楽しんでいた姿が報道でも取り上げられたところです。

今年度、9年生の皆さんが取り組まれる、「外国人を土佐山に招待し、観光案内するツアー」を実施する際には、外国人観光客が多く訪れる「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」とコラボしたツアーを企画していただき、その職場体験が、皆さん自身の興味や適性の発見、働くことの意味や価値への学び、コミュニケーション能力の向上等、将来、皆さんが高知市で活躍できるきっかけとなるよう、本市も応援したいと考えています。

また、ツアーでは、皆さんが土佐山学舎で学んだ英語を使って、生まれ育った土佐山も含めた高知市をご紹介いただき、改めて、高知市の魅力を実感していただく場となれば、嬉しい限りです。

今後も、土佐山学舎の皆さんをはじめとする、市内の児童・生徒の皆さんと協働した取組により、外国人観光客へのおもてなしを行っていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

高知商業高等学校 川淵千夏 議員：

21番。

吉田莉都 副議長：

高知商業高等学校 川淵千夏 議員。

高知商業高等学校 川渕千夏 議員：

はい。

高知市と連携した外国人観光客との交流イベントについて提案させていただきます。

近年、外国客船の高知新港への寄港、台湾からのチャーター便の運航など、高知を訪れる外国人観光客は増加しています。コロナ禍が明け、インバウンド需要が高まりつつあるとともに、私たち高校生も、自分たちの考えを伝えることや、文化的・歴史的背景が異なる他者を理解し、新しい価値を生み出す力をつけていく必要があります。

私たちは、交流を通して文化や考え方を互いに理解し尊重し合うことができると考えています。また、外国人観光客にとっても地域の人や高校生と時間を共有することは、地元の魅力や自分たちだけでは気づくことのできなかった魅力に気づくことができるというメリットがあります。

しかし、私たち高校生が外国人観光客と関わる機会が少ないのが現状です。そこで、交流の機会を設ける際に高知市と連携し、外国人観光客と高校生が交流できる国際交流イベントの実施を提案します。

そこで私たち高校生はよさこい踊りなどの演舞の披露や、日本や高知の文化を英語で発信することにより日本や高知市の魅力を伝えます。また、外国人観光客の方もよさこい踊りや文化体験ができるイベントを計画します。

このイベントの実施により、私たちがグローバル化に対応した社会で活躍するための力、新たな価値を創造する力を身につけることができるとともに、高知を訪れた外国人観光客にも高知市の魅力について知っていただくことができると考えています。そして、高知市に訪れてくれる外国人との交流を増やすことで高知市の発展や国際協力に貢献できると考えていますので、皆様のご協力どうかよろしくお願い致します。

桑名 市長：

市長。

吉田莉都 副議長：

桑名 市長。

桑名 市長：

川渕議員ご質問ありがとうございます。高知商業高校の生徒の皆さんのような、若い世代の方々が、本市の観光行政、そして国際交流に興味を持たれ、外国人観光客との国際交流イベントをご提案いただいていることを、大変嬉しく思うとともに、感謝申し上げるところでございます。

本県の外国人観光客の受け入れは、新型コロナウイルス感染症のまん延により、国により制限されていましたが、コロナ5類移行後は、大変回復しております。昨年、高知新港に寄港したクルーズ船は、56隻と過去最高を記録しておりますし、この4月は14隻の外国客船が入りました。2日に1隻が数千人を乗せて、外国人が高知に入っている状況でございます。先ほどの質問にありました台湾からの定期チャーター便も好調でございまして、搭乗率が90%前後ということで、ほぼ満員という状況で高知市に来ていただいております。昨年度に高知県で宿泊した外国人観光客数は過去最多の12万9千人と、この伸び率は東京都に次ぎ2位となっているところでございます。帯屋町アーケードや高知城

など観光スポットでは、多くの外国人観光客の姿が見られるようになりました。

高知市では、帯屋町アーケードに、外国人向けの観光案内所である「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」を設置しておりまして、英語で高知市を紹介できる職員を配置しております。そうしたことで、多くの観光客の皆様に喜んでいただきたいと、本市としましても努めているところでございます。

ご提案をいただきました、外国人と生徒のみなさんが交流できるイベントの実施は、異なる文化や背景を持つ人々との交流を通じて、多様性への理解や国際的な視野を広げられる重要な機会であると考えており、今年度は、土佐山学舎6年生が「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」を訪れた外国人観光客と英語を使ってコミュニケーションを交わすイベントを実施する予定です。

高知商業高校の皆さんには、よさこい演舞、文化体験のイベントなど、具体的な計画についても、ご提案いただいておりますので、是非とも「こうち観光ナビ・ツーリストセンター」や「高知よさこい情報交流館」とコラボして国際交流イベントが企画できることを私も期待しておりますし、応援していきたいと思っております。

また、今年の高知市夏季大学で、お笑い芸人のバックンマックンさんが来ました。「笑劇的国際コミュニケーション力」がテーマでしたが、外国人とコミュニケーションを取るときには、「間違いを怖がらずに、つかみは日本語でいい。英語は完璧じゃなくても伝わればそれがコミュニケーションになる。」とお話されていたところです。私もほとんど英語もしゃべれないですけれども、外国人がいて目が合ったら、”Hello”と”I am a Mayor of Kochi”と”Welcome to Kochi”と言って、相手がニコニコしていたら、”Have a nice day”この4つで声をかけますけれども、この4つの言葉だけでもすごく通じて、相手も日本に来て日本人と話せたことを喜んでいただけるということを私も感じるところでございます。バックンマックンさんが言っていました、「本当は”Hello”ではなくて、外国人も日本に来たら日本語がしゃべりたいんだ。だから、”Hello”というよりは、日本語で”こんにちは”と声をかけたら、外国人の方も”こんにちは”と返して、そしてこちらも知っている英語を使って、そしたら相手も日本語と英語を使いながらコミュニケーションが取れる。これが本当のコミュニケーションじゃないか。」ということを書いていましたけれども、どうか皆さん方も勇気を持って声をかけていただければなと思うところでございます。

高知市としましても、おもてなしの心を大切に、高知市の魅力を発信することで、観光客が訪れなくなる魅力ある高知市を皆さんと一緒につくっていききたいと思っております。ご質問ありがとうございます。

吉田莉都 副議長：

以上で、通告による質問はすべて終わりました。

このたび、浅野悠希議員ほか20名から、令和6年度こうち志議会宣言が提出されました。内容を説明させていただきます。

事務局長：

これより、岡田咲議長、吉田莉都副議長が、令和6年度こうち志議会宣言を読み上げます。

吉田莉都 副議長：

令和6年度こうち志議会宣言。

私たち志議会議員一同は、本日、令和6年度こうち志議会を終えるにあたり、人と自然が共生し、未来に向かって持続的に発展できる、思いやりにあふれる都市高知を目指して次のことを宣言します。

1. 共生と安心の環

将来、さらに少子高齢化や過疎化が進むことが予想される中で、私たち中学生も地域の活性化や異なる年齢や性別を超えた、人と人が支え合うまちづくりのために、自ら行動を起こし活動に取り組むことが重要になります。互いを尊重し、助けあうために学校や地域、行政といった枠を超え、それぞれの地域がひとつになり、よりよい高知市になるよう努力していきます。

2. 育みの環

学校や地域の課題解決のために、調査や学習を行い、課題解決に向けて、何が必要かを地域とともに考え、地域と連携・協働して、課題解決に向かって取り組みます。

また、課題解決のための活動を通して、多様な人々とコミュニケーションをとる力、新たな社会の担い手として、新しい世界を切り拓いていく力を身に付けていきます。

岡田咲 議長：

3. 地産とまちの環

高知市の、森・里・海の豊かな自然環境、そこで育まれた特産品、高知市を愛する地域の人々。そのすべてが地域や産業を活性化する原動力となっています。私たち若者は農林漁業、観光業、工業、商業の振興を担う一員として中山間地域、田園地域、都市部のそれぞれの特性を学び、自然と町が調和する都市空間を創出します。また、安全で快適な街のために、防災学習やクリーンな地域づくりについて学び、行動を起こします。

4. 自立の環

高知市には伝統的な文化や豊かな自然のほかにも、名所や温かなおもてなしの心などまだまだ知られていない財産がたくさんあります。この財産を持続的に発展させるために、私たち若者が後世へ受け継いでいくとともに、地域の多様な人々や、観光などに訪れた県外の人々、そして世界の人々の交流を深め、「高知に行きたい」「高知で住みたい」という思いを引き出します。

今回のこうち志議会を通して、地域活性化には学生と市政とのつながりが必要であることを痛感しました。学生の新たな発想や地域を守りたいという思いと、執行部の皆様の豊富な知識と技術で思いを形にすることが高知の持続的な発展への一歩になると感じました。

また、高知市の未来を作っているのは執行部の皆様だけではなく「こんな高知市にしたい」という思いを持った私たち自身であることを実感しました。

この経験は私たちに18歳を迎えた時、自分の意思を選挙で表示することに高知市の一員としての責任があることを改めて気づかせてくれました。市政との連携や選挙を通して、さらに輝く高知の街づくりに私たちが参加していくことをここに宣言します。

令和6年8月22日 令和6年度こうち志議会議員一同

岡田咲 議長：

議長を交代いたしました。これより採決いたします。令和6年度こうち志議会宣言に賛成の皆さんの起立を求めます。

起立全員であります。よって令和6年度こうち志議会宣言は、原案のとおり可決されました。

閉会にあたり桑名市長からごあいさつがあります。

桑名 市長：

市長。

岡田咲 議長：

桑名市長。

桑名市長：

「こうち志議会」の閉会にあたりまして、お礼のことばを申し上げます。議長、副議長をはじめ議員23名の皆さん、本日は誠にありがとうございました。

まず、中学校、義務教育学校の皆さんからは学校に関することや、部活動の活性化、また、防災、交通安全、高齢化対策そして観光、地域振興など、さまざまな分野にわたりまして、今の時代にふさわしいご質問をいただきました。

日頃の、学校生活や、地域の一員として生活する中で疑問や課題と感じていることに対して生徒会を中心に協力して調べ、議論したうえで、中学生らしい瑞々しい視点をもってよりよい高知市政のためにご提言いただいたことに大変感謝しております。

答弁しました内容につきましては、皆様方からいただきましたご提言を、我々執行部としても深く掘り下げながら今後の市政を考える際に活かしてまいりたいと考えております。

また、是非、高知市の中学生の代表として、各学校の生徒会執行部や学校の皆さんにこうち志議会でのようなことが話し合われたのかをお知らせくださるとともに、今回の答弁がどのように高知市政に反映されていくのかも引き続き関心をお寄せいただきたいと思います。

高知商業高等学校の皆さんにつきましては、これまで学習してきたことをもとに現状を踏まえたうえで、幅広い視点での高知市の活性化に向けたご提言をいただきました。郷土を大切に思い、真剣に高知市の成長を考えてくださっていることがよく分かり、大変心強く感じております。高校生らしく、積極的に市政に参画しようという思いが伝わってまいりました。

そして、議長の岡田さん、副議長の吉田さん、堂々とした進进行をありがとうございました。本日、採択されました「こうち志議会宣言」は、お二人が21名の議員さんから提出された原案をまとめてくださったものと聞いております。

本市の将来の都市像「森・里・海と人の環 自由と創造の共生都市 高知」を実現するために、施策の大綱として掲げた「6つの環」に関する宣言文からは、輝く高知市の未来を目指していくための

皆様の力強い思いを感じることができました。

本日採択されました「こうち志議会宣言」の決意を、しっかりと胸に刻み、これからもさまざまな挑戦をしていただきたいと思います。

さて、今日、皆様が市役所に入ってくるとき、多くの方がいたと思います。パリオリンピックで金メダルを取った清岡幸太郎選手、桜井つぐみ選手がちょうどその時間に市役所に来ていただきました。私は、2人の戦いを見て素晴らしいと思うのは、最後に「自分を信じて戦った。」と言っておりまして、「自分を信じる」ためにはそれなりの準備をしていなければならない。この2人はレスリングを始めたときから、「オリンピックで金メダルを取るんだ。」その日のために毎日毎日準備をして臨んでいる。だからこそ自分を信じるができたと思います。準備ができていなければ、自分をその場で信じることはできない。しかし、今日このこうち志議会で皆さんが議場に立って質問をされました。堂々たる質問であったと思います。この場に立つことは私も今でも緊張をするところですが、皆さんがしっかり質問をして答弁をいただいたということは、皆さんが今日の日のためにしっかりと準備をしてきたからだとは思いますが。だからこそ、自分を信じて、昨日もそして今、発言をするまでドキドキしていたと思いますけれども、この場に立ったら自分を信じて発言ができたものだと思います。これからは、どんなことにも準備を怠らず、そういったことを積み重ねることで自分を信じるができるものと思うところですが。どうかこれからは頑張ってください、大いに羽ばたいていただきますことを私からも期待をし、お願いを申し上げたいと思います。

結びになりますけれども、関係者の皆様、そして、傍聴くださいました市議会の皆様、保護者・市民の皆様方に心から御礼を申し上げまして、閉会のあいさつと代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

岡田咲 議長：

議員の皆さん、お疲れさまでした。また、桑名市長をはじめとする執行部の方々、ご丁寧な答弁をありがとうございました。さらに、本日、お忙しい中、傍聴に来ていただいた皆様方にも心から感謝いたします。

これにて、令和6年度こうち志議会を閉会いたします。